

◆技術改良試験（重点普及課題）

オキナワモズク人工苗床実証試験（宮古地区）

宮古農林水産振興センター農林水産整備課 長嶺 巖

1 目 的

モズク養殖の苗床としてアマモ場やサンゴ礁等の底質の漁場が利用されている。

苗床では、網を緩く張ると芽だし・成長が良いといわれているが、漁場によっては網が擦れる、雑草が付きやすいなど安定した芽だしができない問題を抱えている。

2 方 法

試験は、池間漁協モズク生産グループの仲原芳実さんの協力を得て実施した。

平成22年1月29日に養殖網40枚を1トンタンク2面で種付けを開始。採苗種は水産業改良普及センターから8月28日に本部種を取り寄せ、離島漁業再生支援事業で導入設備した培養室で拡大培養したオキナワモズクの胞子を1トンタンク当たり4リットル使用して種付けを行った。

平成22年2月9日に敷き網3枚を連結してその上に、採苗したモズク網5枚を2列（10枚）に重ねて育苗を開始した。

育苗場所は、池間漁協の特定区画漁業権271号内のアジモ場で水深が干潮時で1.2mの浅い場所で行った。

3. 結 果

平成21年3月8日育苗状況を潜水観察した結果1cm程度に芽だしが確認できたので本張に移すよう指導した。

4月27日生育状況を確認したところ、敷き網有り区は養殖網と下に敷いた敷き網とのスレが見られ、生育にばらつきがあるが、芽落ちはなく全体的には生育状況は良好であった。

敷き網なし区は全体的に良好であった。

2月9日に育苗開始したモズク網を6月2日に収穫し比較検量した結果、敷き網有り区が1枚当たり104.2kg、敷き網なし区が91.6kgとなり、敷き網有り区が12.6kg収穫量が多かった。

平成20年度試験は、敷き網有り区が78kg、なし区が148kgと約2倍の開きがあったが、今年度試験では敷き網有り区の収穫量が多かった。

4. 考 察

平成20年度は育苗（沖だし）開始時期が1月9日で、2月16日に本張し3月には10cm以上成長した段階で春一番の大時化に見舞われ、敷き網試験区は敷き網とモズク網との擦れが原因でモズクが切れたため収穫量が半減した。

その反省を踏まえ、①平成21年度試験は沖だし時期を1ヶ月ずらし、2月9日に沖だし、3月9日に本張を行い成長時期を4月設定した結果、春一番の大時化に一部網スレがあったものの、全体的には両区とも順調に生育した。

特に、収穫量で敷き網有り区が敷き網なし区を上回った要因は、浅い漁場での波浪対策を考慮して生育時期をずらしたことがあげられる。

② 雑草対策でも前年度は網スレ後にウスユキウミウチワ、イバラノリ等の雑草が敷き網有り区網に多く付着したが、今回は網スレがほとんどなかったため雑藻の付着も少なかった。

③モズクの品質面で前年度は採苗タンク1トン当たり10リットルの培養種を使用したため、過密に種付けされた結果モズクが細いとの指摘を受けたが、平成21年度は1トンあたり4リットルの培養種で採苗した結果、天然母藻からの採苗と変わらない太いモズクが収穫できた。

①敷き網有り区



②敷き網有り区の生育状況



③敷き網なし区



④敷き網なし区の生育状況



⑤水深が浅い場所でシュノケルで収穫

